

4 日本橋 ~ 千住宿
東京都台東区 東京都足立区
汨橋 ~ 千住仲町
 (歩行距離 2064m 24分)
歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp



千住大橋矢立の碑

千住大橋松尾芭蕉矢立の碑 素盞雄神社と同様の句碑がある。ここから荒川土手までが北千住宿。

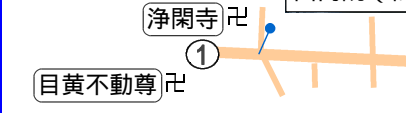


誓願寺 「恵心院(えしんいん)と号す」(江戸名所図会)恵心僧都が慶祐法師に命じて建てさせた。天正19年(1591)徳川家康が腰掛けたという櫃があった。



素盞雄神社「この地の産土神とす。余人混じて箕輪の天王と称せり。...祭神大己貴命(まつるかみおおあなむちのみこと)、事代主命(ことしろぬし)二座なり。社伝に曰く。往古(むかし)延暦年中(782~806)比叡の黒珍師(こくちんし)東国化度(げど)の砌(みぎり)、この地に至るに小篠(おさぎ)の茂りたる一堆(いったい)の小塚あり。(この塚によりてこの地を小塚原と号せり)その塚より夜な夜な瑞光を現じ、白衣を着したる二人の翁、荆棘(うばら)生ひたる石の上に降臨ありて、黒珍師に示して曰く、我は素盞鳴命の和魂大己貴命なりと。...「瑞光石 本社の方小塚原の上にあリ。また荊石(けいせき)ともしへり。往昔(そのかみ)二神老翁(らう)に化し。この石上に現じたまふといへり。考ふるに、これおそらくは上古の荒墓ならんか」(江戸名所図会)「千じゆと云所にて船をあげれば、前途三千里のおもひ胸にふさがりて幻のちまたに別離の涙をそくく」行春や鳥啼魚(とりなきうお)の目は泪 元禄2年(1689)3月27日、奥の細道の旅立ちの碑がある。

回向院(えこういん) 安政の大獄(安政5年~安政6年・1858~1859)で処刑された橋本左内、吉田松陰、頼三樹三郎、梅田雲浜、安政7年(1860)3月3日の井伊直弼を倒した桜田門外の変や、文久2年(1862)1月15日老中安藤信正を襲った坂下門外の変に連座した浪士たち、相馬大作、雲井竜雄らの墓がある。また、講談や芝居でお馴染みの鼠小僧次郎吉、直侍こ片岡直次郎、毒婦高橋お伝、侠客の腕の喜三郎などの墓もある。 明和8年(1771)杉田玄白、中川淳庵、前野良澤らが刑死者の腑分(ふわけ)を行い「解体新書」を翻訳した。



浄閑寺 寛文4年(1664)以来、遊女2万人余りが投げ込み同然に葬られた浄閑寺がある。「生まれては苦界死しては浄閑寺」。平井権八に返り討ちにされた本庄助市・助七兄弟、佐野治郎左衛門に殺された遊女八ツ橋、「め組の喧嘩」濡髪長五郎の墓がある。南には江戸五色不動の一つ「目黄不動」がある。目白・目黒ほど有名ではないが参詣者は多い。



掃部宿 このあたりを掃部宿といい、慶長3年(1598)に石出掃部亮吉胤(いしかかもんのすけよし)によって千住宿につながる新たな宿として開発された。

千住仲町 此処はやっちゃん場北詰 セントラルコート 源長寺 横山家の蔵を移築。 千住河原町 日光街道道標。「是より西へ大師堂」西新井大師への起点。 家の前に昔の屋号を表示 「此処はやっちゃん場南詰」ここから歩道がなくなる。 やっちゃん通り。

掃部堤 隅田川左岸として元和3年(1617)に築防上た築道筋。埋め立てられた。 日光街道道標。 「是より西へ大師堂」西新井大師への起点。 家の前に昔の屋号を表示 「此処はやっちゃん場南詰」ここから歩道がなくなる。 やっちゃん通り。

千住歴史プラテラス 千住河原町 橋戸神社 土蔵造りの本殿庫の内側に、入江長八作とされる漆喰鏡(こて)に『親子狐』が描かれている。半農半漁の村人が稲荷の神を勧請して創建されたといわれる。

日光街道道標。 「是より西へ大師堂」西新井大師への起点。 家の前に昔の屋号を表示 「此処はやっちゃん場南詰」ここから歩道がなくなる。 やっちゃん通り。

橋戸神社 土蔵造りの本殿庫の内側に、入江長八作とされる漆喰鏡(こて)に『親子狐』が描かれている。半農半漁の村人が稲荷の神を勧請して創建されたといわれる。

日光街道道標。 「是より西へ大師堂」西新井大師への起点。 家の前に昔の屋号を表示 「此処はやっちゃん場南詰」ここから歩道がなくなる。 やっちゃん通り。

奥の細道矢立の碑 橋戸神社 交番 千住大橋 中央卸売市場 足立市場 陸羽裏街道(東京府志料)御成道を上野広小路に出で、上野山下から山谷と根岸をつくる道。 千手河岸 川越・飯能方面の物資の集積所。 真養寺 1659年日本橋の材木商が寺地を寄進して開基。

陸羽裏街道(東京府志料)御成道を上野広小路に出で、上野山下から山谷と根岸をつくる道。 千手河岸 川越・飯能方面の物資の集積所。 真養寺 1659年日本橋の材木商が寺地を寄進して開基。

小塚原、中村町は千住下宿とよばれた 西光院 賢誉長公が天文年間の開基の寺院。本尊は、阿彌陀如来は恵心僧都源信の作と伝える四尺の坐増である。「病のある者が、笹の枝に差した白団子を供えて祈願すれば病気が治る」と霊驗があると噂が広まり「笹の団子の如来」と言われる。

丸通寺へ 寛永寺の黒門があり彰義隊の戦いの弾痕がある。彰義隊士27人、大鳥圭介の墓がある。

火葬場跡(南千住5丁目21,22) 「此宿往還より西之方寄町余引込、諸宗之方葬をいたし候寺院拾九ヶ寺有之」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)小塚原町の飯盛女をひやかしに行く人は、火葬の骨に小塚原のゴツを掛け合わせ「ゴツに行く」といった。「焼き場から往生させてゴツへ連れ」の川柳がある。

丸通寺へ 寛永寺の黒門があり彰義隊の戦いの弾痕がある。彰義隊士27人、大鳥圭介の墓がある。

小塚原町 「此地は浅草より奥州道へ出る処にして宿にしては無し。小塚原・中村町・上宿町・原町と有り。此地八拾壹石五斗。家数五百零軒。内七拾四軒旅館屋也。内三十六軒飯盛女有之内(花散る里)この飯盛女の料金は四百文だったという。 「天保十三年壬寅(1842)六月より昼は見世格子を取置、夜分はメ(しめ)て見世をはる事は迄之通り」(岡場所遊郭考)夜になると吉原と同様に見世の女を格子越しに見て選んでいた。

丸通寺へ 寛永寺の黒門があり彰義隊の戦いの弾痕がある。彰義隊士27人、大鳥圭介の墓がある。

延命寺 延命地蔵(首切り地蔵) 「小塚原刑場址 刑場は初め今の日本橋本町4丁目辺に在り、後鳥越橋に移し...、更に聖天町西方寺向(むかい)に転じ、再び此地に移し、維新前後に及ぶ」(東京案内) 「万治年中(1658~1661)幕府ノ時、牢死、若クハ道路ニテ倒レシ屍ヲ回向院境内ニ埋葬セシム隙地ナケレバ寛文7年(1667)此刑場ヲ持地ニ賜リ、カノ無縁屍ヲ葬レリ」(東京府志料) この刑場は間口110m、奥行55mの広さ。品川の鈴ヶ森とここ小塚原の二ヶ所が刑場であった。刑死者の骨が散乱していたので「骨ヶ原」とよばれ、山谷と千住宿間の街並みが途切れる場所に慶安3年(1651)に造られた。

丸通寺へ 寛永寺の黒門があり彰義隊の戦いの弾痕がある。彰義隊士27人、大鳥圭介の墓がある。

延命寺 延命地蔵(首切り地蔵) 「小塚原刑場址 刑場は初め今の日本橋本町4丁目辺に在り、後鳥越橋に移し...、更に聖天町西方寺向(むかい)に転じ、再び此地に移し、維新前後に及ぶ」(東京案内) 「万治年中(1658~1661)幕府ノ時、牢死、若クハ道路ニテ倒レシ屍ヲ回向院境内ニ埋葬セシム隙地ナケレバ寛文7年(1667)此刑場ヲ持地ニ賜リ、カノ無縁屍ヲ葬レリ」(東京府志料) この刑場は間口110m、奥行55mの広さ。品川の鈴ヶ森とここ小塚原の二ヶ所が刑場であった。刑死者の骨が散乱していたので「骨ヶ原」とよばれ、山谷と千住宿間の街並みが途切れる場所に慶安3年(1651)に造られた。

丸通寺へ 寛永寺の黒門があり彰義隊の戦いの弾痕がある。彰義隊士27人、大鳥圭介の墓がある。

やっちゃんば 享保元年(1716)頃かは毎朝市が開かれ野菜や穀物あるいは川魚が商われ、神田や京橋の市場へ運ばれた。市場の近くに幕府の御前裁畑が多く作られ、また民間の野菜畑も多く、青物問屋が集まった。昭和6年(1931)中央卸売市場へ統合された。 大森やっちゃん場の語源 問屋のセリ声がやっちゃんやっちゃん聞こえてくることからやっちゃん場といわれるようになった。

千住大橋 「荒川の流れに架(わた)す。奥州街道の咽喉(いんこう)なり。橋上の人馬は絡驛として間断なし、橋の北一、二町を経て駅舎あり。この橋はその始め文禄3年(1549)甲午9月、伊奈備前守奉行として普請ありしより、今に連綿たり」(江戸名所図会) 「板橋、高欄付、長66間、横4間橋杭3本立、16組」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳) 文禄3年(1594)隅田川で最初にかげられた橋。松尾芭蕉が見送り人々と別れた場所。江戸幕府は軍防衛上、千住大橋、六郷橋以外には極力架けさせなかったが、明暦の大火(1657)で多数の犠牲者が出たので、両国橋、吾妻橋、新大橋、永代橋などが架けられた。 昭和2年(1927)に鉄橋になった。

熊野神社 「祭神伊弉冉(いざなみ)尊一座。社伝に云(い)わく、永承年中(1046~53)義家朝臣奥州征伐の時、此地に至り河を渡らんとするに、奇異の霊瑞あり。故に鐘櫃に安置し紀州熊野の神祭(みくら)を、この地にとどめて熊野権現と齋(いつ)きたてまつるといへり」(江戸名所図会)伊奈忠次が千住大橋を架けるときに祈願した

南千住駅 JR常磐線、日比谷線、つくばエクスプレスの3社が乗り入れている。 このほか、JRの駅からは、JR貨物隅田川駅へと通じる隅田川貨物線が分岐している。この支線は貨物列車のみが使用する。



延命寺(小塚原刑場跡) 延命寺 延命地蔵(首切り地蔵) 「小塚原刑場址 刑場は初め今の日本橋本町4丁目辺に在り、後鳥越橋に移し...、更に聖天町西方寺向(むかい)に転じ、再び此地に移し、維新前後に及ぶ」(東京案内) 「万治年中(1658~1661)幕府ノ時、牢死、若クハ道路ニテ倒レシ屍ヲ回向院境内ニ埋葬セシム隙地ナケレバ寛文7年(1667)此刑場ヲ持地ニ賜リ、カノ無縁屍ヲ葬レリ」(東京府志料) この刑場は間口110m、奥行55mの広さ。品川の鈴ヶ森とここ小塚原の二ヶ所が刑場であった。刑死者の骨が散乱していたので「骨ヶ原」とよばれ、山谷と千住宿間の街並みが途切れる場所に慶安3年(1651)に造られた。